

西光寺阿弥陀堂(上田市)

正面は真言宗智山派の松本山西光寺仁王門



右手の石柱には「西光寺参道」とある



仁王門



上田市指定文化財

西光寺金剛力士像

上田市文化財保護条例第五条により次のとおり指定する。

- | | |
|---------|-----------------|
| 一、種 別 | 有形文化財(彫刻) |
| 一、名 称 | 西光寺金剛寺力士像 |
| 一、所在地 | 上田市大字富士山三、〇三六番地 |
| 一、指定年月日 | 平成十三年九月十三日 |

須坂市米子よせこにある不動寺の寺伝によると、江戸時代の宝暦年間(七五二―七六四)に本像が西光寺に移されたといわれる。また、慶応二年(八六六)に西光寺が不動寺に奉納した絵馬には、この像が不動寺から移されたものであることを記しており、経緯は判然としないが、不動寺から移されたものであることが知られる。「米子のお不動さん」への信仰は、菅平の大笹街道おおささかいちを越えて上田地域でも篤く、現在でも四つの講がある。

仁王門内には、向かって右に大きく「あ」と口を開けた阿形あぎょう、左に「うん」と口を結んだ吽形うんぎょうが配置され、いずれも檜ひのきの寄木造よきぞうとなっている。像高は二三二センチメートルを計る堂々とした造形である。

本像の力感に溢れた動きのある造形は、鎌倉彫刻の特徴をよく示しており、製作年代は十三世紀に遡ると判断される。鎌倉後期の長野市長勝寺像(県宝)とともに、県下鎌倉期の金剛力士像の代表例として高く評価される。

平成十五年三月二日

上田市教育委員会

製作年代は13世紀に遡るとされる上田市指定文化財の木彫金剛力士像/檜の寄木造
阿形



反対側には佐加神社(末尾参照)がある





参道を進むと山門が見えてくる



山門/1756年建立





鐘楼門となっている



木製の根巻き



西光寺の沿革

今から七百年ばかり前、当時の塩田城主北条陸奥入道道祐(国時)開基となり足利(栃木県)の鶴足寺から実勝僧正を迎えて開山として、この地(当時は東松本村と云つた)に建立され、脇堂として阿弥陀堂が有り、南に仁王門、山門(鐘楼を兼ねている)が有ります。真言宗の寺で本尊は大日如未で、松本山阿弥陀院西光寺と称します。伝説によりますと、その昔弘法大師が当地方を巡歴の際、この地が宇三門寺と云つて寺にゆかりの有る地名なので、しばらく足を止められました。立派な僧が見えたというので、老人連が集つて仏像を彫刻して貰いたいとお願ひしたところ快く承知されて、阿弥陀如未と大日如未の二体の仏像を彫刻してくれました。

そこで今の阿弥陀堂の有るところに小さなお堂を建て、安置しておきました。日増しに信者が増え空町時代になって現在の阿弥陀堂が建立され、諸願成就、家内安全五穀豊穡を祈って、ご利益が顕著だと信仰を集めています。

一方、塩田城の出城(見張りの為の分城)が二ツ木峠に有った頃、時々西の方に夜光が見えたというので、時の城主北条陸奥入道道祐(国時)により、この地に寺を建てられ大日如未を本尊としてお移し、て西光寺と称(西の方に夜光を見てこの寺名を付けた)し、阿弥陀如未だけがそのまゝ、安置され阿弥陀堂となり今日に及んでいる。その後、宝暦六年山門が建立され仁王門も建てられました。弘化三年(約百三十年程前)火災にあい本堂と庫裡は焼失しましたが再建されて今日に及んでいます。

県宝 西光寺阿弥陀堂

長野県文化財保護条例第四条の規定により左記のとおり指定する。

記

- 一 種 別有形文化財（建造物）
- 一 名 称 西光寺阿弥陀堂
- 一 所在地 上田市富士山三〇三六番地
- 一 指定年月日 昭和五十六年十一月七日

普通、阿弥陀堂は方三間（五間も稀にはある）の宝形造りで東面して建てるのだが、この堂の場合は奥行が長く、実尺正面三間（五・四五m）奥行四間（七・一七m）の小堂で、前方柱間一つ分が吹放ちの拝所になっている変わった平面である。このような間取りは中世の小規模な仏堂にかなり多く用いられており、県内にも松尾寺本堂（穂高町）・盛蓮寺観音堂（大町市）等の例がある。また室町時代のこのような仏堂には禅宗様の細部様式を使用することが多いが、この堂でも柱上端の組物・頭貫木鼻に禅宗様を用いている。

後世の改修により屋根が茅葺きになっていたのを、昭和六十三年度からの屋根解体復元工事により平成元年、柿葺きに復元した。室町時代後期（十六世紀前半）の手法を各所に留め、当地方に数少ない遺例である。

保存上の注意

- 一 特にたばこ・焚き火・線香等の火気に注意すること。
- 一 周辺環境美化に努めること。

平成二年三月三十一日

長野県教育委員会

上田市教育委員会

正面は本堂



前方が阿弥陀堂



室町時代後期(16世紀前半)の建立/宝形造り/長野県宝/前方柱間一つ分が吹放ちの拝所となっている



屋根は柿葺き



前方一間が外陣、後方二間が内陣となっており、その境を、中央は格子戸嵌殺し、左右は引違の格子戸としている





堂の周囲には縁が回っている







頭貫の上には台輪をおき、木鼻には禅宗様特有の絵様が施されている/柱の上の粽がみてとれる/軸部材はすべて白木であるが、木鼻の渦や束などには墨が塗られている



柱上の組物は実肘木付の禅宗様の三斗で、中備は撥束という裾の広がった束を用いている



自然石の礎石の上に円柱を立てている



内陣の奥は、来迎柱の間に板壁を設け、それより前に突き出た形で簡単な形式の須弥壇を設けている/奥両脇には中備は撥束が見える



参考ホームページ

<http://museum.umic.jp/map/document/dot5.html>

http://ogino.ninpou.jp/ueda_tera/fuziyama_saikouzi/index.htm

http://blogs.yahoo.co.jp/akira_o2ka/58252602.html

http://blogs.yahoo.co.jp/akira_o2ka/60861944.html



佐加神社



